

第 3 回 枚方市景観懇話会 会議要録

日 時	平成 24 年 10 月 27 日 (土) 13:30~16:00
場 所	枚方市市民会館 1 階 第 1 集会室
出席者	【会員】 (自然景観) 太田宏美、大橋憲一、島崎仁作、半明和夫、藤宗信子 堀内義章、三浦八千代 (市街地景観) 岩橋康郎、金只英明、竹島健次、森川明 (歴史景観) 井上良子、上原一恵、清水源久、宝田豊昭、田村正巳 【市役所】 (都市整備部) 河本課長、長谷川課長代理、米田主任 【コンサルタント】 (株式会社東京建設コンサルタント) 片山、田中 _勉 、藏本、田中 _美
欠席者	【会員】 (市街地景観) 藤井由美、横山かおり (歴史景観) 大野賢、奥本圭子
内 容	○会議要録の確認 ○グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・「景観発掘調査」結果の確認 ・景観類型別の景観形成の方針 ・意見交換、とりまとめ ○グループ発表
資 料	○次第 ○懇話会会員一覧 ○座席図 ○『第 2 回枚方市景観懇話会 会議要録』 ○資料 1: 「第 3 回懇話会の進め方」 ○資料 2: 「景観発掘調査結果」 ○資料 3: 「景観類型区分」 ○ご意見用紙

【案件説明等】

- 第 2 回枚方市景観懇話会の会議要録について、会員に内容の確認をしていただき、指摘を受けた事項について再確認するものとした。
- 各グループ単位で「景観発掘調査」の結果の確認を行った。
- 各景観類型区分について、「景観の問題点」と「景観形成の目標・方向性」を会員毎に検討していただいた。
- 各景観類型区分の「景観の問題点」と「景観形成の目標・方向性」を各グループでとりまとめていただいた。
- 各グループでとりまとめた内容をグループリーダーに発表していただいた。

【発言内容】

●会議要録の確認

（会 員）

- ・会議要録の内容には問題は無い。しかし、発言内容を示す写真が本日の資料 2 に記載されていない。

（事務局）

- ・資料 2 は第 3 回枚方市景観懇話会の資料として、第 2 回枚方市景観懇話会で提出された写真から代表的なものを抜粋したものである。第 2 回枚方市景観懇話会との関連を再度確認し、不足分を追加する。

●景観類型別の景観形成方針検討結果のグループ発表

○市街地景観グループ（市街地景観グループリーダー）

- ・市街地景観グループの検討対象は、道路など人の流れがある景観と生活空間の景観が主な対象となっている。

①主要ターミナル拠点景観

- ・枚方市駅と樟葉駅周辺が主要な景観対象である。
- ・課題は 1990 年代に開発された建築物が 2012 年の現在このままで良いのかということが挙げられる。枚方市の玄関口として在るべき姿ではない。
- ・樟葉駅前のビルは現代的なデザインであるが、全体的に緑が少ないことが課題である。

②その他のターミナル拠点景観

- ・単発的な開発ばかりで総括的な工事がされていないという課題がある。
- ・工事が途中で放置されている箇所がある。
- ・新規開発、再開発などの工事を連動させて実施すべき。
- ・鉄道や高速道路などの高架下の擁壁の配色を考えるべきである。

③広域幹線道路景観

- ・街路樹、雑草、ゴミなど悪いイメージのものが多い。
- ・道路の管理、メンテナンスをする必要がある。
- ・街路樹や看板の大きさ、高さの基準を設けるべき。
- ・建築物と道路の離隔距離を上げ、道路を広く見せる必要がある。（良い例：フォレオひらかた）

④地域幹線道路景観

- ・放置自転車が課題である。
- ・自転車専用道を整備する。
- ・歩道や車道の幅員を拡げる。

⑤生活道路景観

- ・各場所により、異なる問題点があるため、特定の課題点は無しとする。
- ・生活道路沿いに公園など人が集まれる場所を整備すべき。
- ・落ち着いた生活空間の維持の為、生活空間に馴染んだ建築物を整備すべき。

⑥中心商業・業務地景観

- ・整備は実施されているが、美化対策が不十分な箇所がある。
- ・市で方向性を決めて、それに基づいて条例の制定や行政指導を行っていくべき。

⑦近隣商店街景観

- ・放置自転車が多い。自転車置場が少ない。
- ・歩行者（子ども、高齢者）を優先とした商店街を構築すべきである。
- ・自転車置き場を整備する必要がある。

⑧郊外型商業施設景観

- ・看板の大きさ、デザインに統一性が無いことが課題である。
- ・看板の大きさ、デザインの基準などを設けるべきである。

○自然景観グループ（自然景観グループリーダー）

⑨眺望景観

- ・枚方市は自然の美しいところであるが、落書きなど見苦しいところがある。
- ・落書きは至る所にあるので、落書きを無くす為の啓蒙活動、罰則の制定などが必要である。
- ・ガードレールなどを撤去して遊歩道などを整備しても良いと思う。無理ならば、標識や段差などで車両の通行を制限したり、注意喚起したりしてはどうかと思う。

⑩眺望点

- ・草木が伸び放題で眺望出来ないことが問題である。
- ・市役所、ボランティアが一体となって草刈りをするべきである。

⑪ランドマーク景観

- ・立派で美しい大木があっても、知っている人が少ない。PRが足りないのではないか。
- ・ランドマークとなる建築物があっても周辺に緑地が無く、高級感が無い。
- ・ランドマークのPR活動やランドマークへのアプローチ通路などを整備すべきである。

⑫自然緑地景観

- ・枚方には美しい自然景観があり、この景観を次の世代へ残したい。
- ・残すべき場所を明確に、PR活動などで周知していくことが必要である。

⑬田園地景観

- ・美しい田園地の中に休耕田（休耕地）があり、雑草が伸び放題である。また、今後はこのような場所が増加することが問題である。
- ・教育機関と連携して、休耕田を子どもの教育（農業教育、自然学習など）に利用する。その際に市には仲介役を担ってもらいたい。

⑭公園緑地景観

- ・きれいな公園は多いが、行き止まりや子どもが集まらないなど利用し難い公園が多い。
- ・木材の利用、多機能化、モニュメントや遊具の設置など、地域ごとにそれぞれの特徴を活かして、明るくて入りやすい公園に整備することが必要である。

⑮広域都市河川景観

- ・歩道が無い上に雑草が繁茂して危険である。
- ・遊歩道などを整備し、歩きやすい環境にするべきである。

⑯都市河川景観

- ・河川のデザインが悪い。お役所仕事のようなものである。また、河川が汚いことが問題である。
- ・生態系に影響しない範囲でデザインなどを考えるべきである。

⑰小河川・水路景観

- ・良い景観があっても、フェンスなどで囲われている。
- ・生活排水が流れ込んでいる。
- ・生活排水を河川へ流さない。そのために各個人への啓蒙活動や下水道の整備が必要である。
- ・「いきもの調査会」などを活用し、河川にどのような生きものがいるのかを地域住民に教えていくことが必要と思う。
- ・全体として、川を汚さない、ゴミを捨てないなどの個人のモラルの向上と、市、企業、ボランティア、学校など市民が一体となって自然景観を守ることが必要である。

○歴史景観グループ（歴史景観グループリーダー）

⑱計画的開発による戸建住宅地景観

- ・一見すると問題なさそうだが、中には空き家があり、防犯上、景観上配慮する必要がある。
- ・市木であるヤナギ、サクラを植栽してはどうか。
- ・子どもの為の公園などの施設を整備する必要がある。

⑲中高層住宅地景観

- ・近くから見ると圧迫感がある。
- ・道路との離隔距離をとって、歩道や緑地を整備すべき。
- ・既設の住宅との調和を図る必要がある。
- ・安らぎが得られる昔ながらの団地（道路公団）などは残すべきと思う。

⑳一般住宅地景観

- ・フェンスなどが雑然と作られている。どのようなものを作れば効果的な交通誘導につながるのかを市内部で調整できていない。
- ・部署間の連携を図り、市民の安全を優先させた開発を行うべきである。

㉑大規模工場・工業団地景観

- ・道路沿いの工場が多く、緑地の整備などを行政から指導すべきと思う。
- ・ゴミの放置などについて行政の指導が必要である。

㉒小規模工場群景観

- ・ゴミの放置などについて行政の指導が必要である。
- ・全体的に暗いイメージがある。

㊸旧集落景観

- ・古い町並みの中に歯抜けのように駐車場がある。
- ・現時点では良いが、10年後もこの状態を維持できるかが課題である。
- ・今の状態を次の世代へ引き継ぐことが出来るようなルール作りが必要である。
- ・電線の地中化が必要である。

㊹旧街道景観

- ・看板が周囲の景観を無視して作られている。
- ・電線の地中化が必要である。
- ・標識、案内サインにも配慮が必要である。

㊺史跡・文化財景観

- ・個々の史跡は残されているが、大規模開発により周辺の面影が消えている。
- ・お地蔵様など管理されている史跡のPRが必要である。
- ・市外の人でも枚方の歴史を学べるような場所にして欲しい。
- ・景観を阻害する建築物がこれ以上増えないように規制をかける必要がある。

●まとめ（事務局）

- ・第1回枚方市景観懇話会では景観の現状について皆様に知っていただきました。
- ・第2回枚方市景観懇話会では景観発掘調査として皆様に市内の景観資源を抽出してもらいました。
- ・今回の枚方市景観懇話会ではみなさんから頂いた景観資源を現在の景観基本計画にある類型ごとにまとめ、景観を構成する要素が解るようにし、類型区分ごとに課題点と目標・方向性を考えてもらいました。
- ・次回は枚方市駅周辺において、各要素が街中でどう繋がっているのか、景観を面として捉えてもらい、どういった形で面的な景観のイメージをつなぎ重ねていけば、まち歩きが楽しくなるのか、具体的に検討していただきます。
- ・第3回枚方市景観懇話会のまとめとして、市街地景観グループは、課題に対する方向性が解りやすくまとめられていました。特に、市域周辺を含めた中心市街地については市としても課題があり、今回の意見も踏まえて、今後、積極的に解決すべき地区であると思いました。
- ・自然景観グループは、総括で問題に対する解決の方向性として行政と市民グループとの連携という大事な点を挙げていただきました。
- ・公園緑地に関しては、明るく入りやすい公園や避難所という目的を持たせた公園などを、使い方も含め生活面と密着させて検討する必要性を指摘していただきました。
- ・歴史景観グループは、中高層住宅の建築に関しては景観の立場から周辺との調和を図ることの重要性を指摘していただきました。
- ・旧集落や史跡については、貴重な財産が失われつつあるとのことでしたので、周囲の指導、規制などについて行政も含めてもう少しメリハリをつけるべきという意見をいただきました。

- ・今回このような形で皆様の意見をいただき、徐々に守るべき景観の形が見えてきたと思います。
- ・次回はまち歩きの中で面的に景観を捉えていただき、ご意見を頂けたらと思います。本日はありがとうございました。

●**会員からの質問**

(会 員)

- ・ホームページで第1回枚方市景観懇話会の公開資料を見たが、「参考資料」の内容を議論した記憶は無い。議論していない内容を公表されても責任が持てない。

(事務局)

- ・懇話会で配布した資料は原則公開としており、その旨は初回の枚方市景観懇話会で確認している。また、参考資料は景観の現状を学ぶ為の資料であり、皆様が議論した内容を取りまとめたという資料では無い。

以 上